

3年生諸君へ②

学校長 角 秀 明

近年、飯高の最上級生は、自分の進路に真摯に向き合い、その偉大な背中を下級生に示してくれるので、大変頼もしく思う。本年度も、皆さんが進路決定に向けて邁進して行ってくれることを願っている。

そもそも、何故、人々は高みを目指すのか。それはそこに美味しいことがあるからである。それが打算的ではあるが、最も現実的な理由ではなからうか。例えば、毎年、東京大学の倍率は3倍前後、それに対して金沢大学は2倍前後である。同じ国立大学であっても、倍率から見ても金大の方が入りやすく、受験生の学力層から見てもそうであるのだが、東大には金大の倍以上の人が群がって受験する。何故、人々は東大の方が良いのだろうか。今はあまり学歴社会について言わなくなったが、やはり東大へ行った方が大企業に入ることができるし、高給を得ることができる。つまり、豊かな人生へのポジション取りができるのである。都市部では幼稚園や小学校入学からすでに受験し、競争を開始している。幸い、我々はこのんびりと生活してきたが、高校卒業後は田舎育ちを言い訳することもできず、豊かな人生へのポジション取りの中へ入って行かざるを得ないのである。ただし、お金だけが仕合わせでないことは申し添えておく。

さて、本校は15年以上にわたって進路チューター制度を実施し、チューターの先生と自分の適性を考えて進路を決定している。卒業時、満足のいく進路結果を得ている受験生のかなり多くが2年次の夏休み前後に決定していることを考えると、理にかなった制度である。3年次はそれに向かって突き進んで行く年である。これでいいのだろうかと迷っても、どうすればいいのだろうかと思っても、1点も上がらない。それは限られた時間の中で、無駄の何物でもない。もし、そんな状態になったとしたら、直ぐに担任や進路指導の先生に相談し、喝を入れてもらうことである。これがこの病気を治す最良の手段である。

そして、皆さんには就職・進学を問わず、「一流の受験生」になって欲しい。一流というのはただ単に一流企業や偏差値の高い大学を目指せというのではない。一流の努力ができる受験生である。進路決定において最も大事なことは、目標を達成するための努力をし尽くすことなのである。そのためには我が侘を言わず感謝の気持ちを持ち、甘い誘惑に負けないことが肝要である。自分が本当に努力しているかどうか、その本気度は周囲の人が一番分かる。いわゆるオーラを出している状態である。周囲が認める努力、目標に見合った努力を期待する。兎に角、どこか行くところがあれば良いというような、不十分な努力量に合わせた目標設定は今の飯高生らしくない。一流の受験生になることができれば、目標達成する確率は飛躍的に上昇する。万が一、目標に届かなくても納得がいくし、他の道も開くことができる。一流の受験生になることができなかった人は、納得のいかない結果に理屈を付けて、心をごまかすような愚行を犯してしまう。世の中は、皆さんが思っている以上に厳しく、子供のままでいたい人には非常に冷淡に、不合格通知を突きつけてくる。

受験勉強に精一杯臨みながら、人間的にも逞しく成長できた人に合格通知はやってくる。不安もあるだろうが、それは受験生ならば必ず持つ感情である。それに打ち勝ち、合格通知を得るためにはやはり人間的に成長することが大切である。